

別記様式第3号（第6条関係）

会 議 記 録

次のとおり附属機関等の会議を開催したので報告します。

附属機関等名称	近江八幡市食品ロス削減推進計画評価部会		
開催日時	令和8年2月6日(金) 10:00-11:45		
開催場所	近江八幡市役所2階C会議室		
出席者 ※会長◎	出席者（敬称略） 審議会委員 ◎和田 有朗 ・ 吉田 栄治 ・ 大村 啓子 ・ 中江 しげ子 事務局 生活環境課 課長 中嶋 武志 副主幹 小島 史子 主事 西中 克季 主事 北脇 翔也 主事 北村 拓己		
次回開催予定	令和8年3月（第2回 廃棄物減量等推進審議会）		
問い合わせ先	所属名：市民部 生活環境課 担当者名：北脇 電話番号：0748-36-5509 メールアドレス： 010602@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録 ・ 要約	要約した理由	長時間の会議につき、内容を整理したため
内容	◎宴会での調査について 資料“宴会における現地調査についての計画案”に基づき和田会長より説明。 宴会における食べ残しの実態を把握し、視覚的情報による訴求が消費者の意識にどのような影響を与えるのか、食品ロスの削減にどのくらい寄与するのかを検証することを目的とする。昨年度、宴会を対象に三角柱POPを設置し、食品ロス量の調査を行ったが、効果は限定的であった。		

今年度においても引き続き本取組の実施を検討。

昨年度の三角柱 POP は宴会のテーブル上に置かれ邪魔に感じ、視認性が低いとの意見があり、今年度はポスター掲示を検討している。ポスターの内容は、昨年度の三角柱 POP と同内容のものと、色彩心理を利用した新デザインのもの2種類。

三角柱 POP 自体に問題があったのか、それとも掲示デザインに問題があったのかを統計的に明らかにする。

昨年度の三角柱 POP と同内容のもの、色彩心理を利用した新デザインのもの、掲示なしのそれぞれを30組以上調査。

調査対象店は三方よしフードエコ推奨店。

ポスターの掲示場所をどうするか、季節によって調査対象店の宴会メニューが変更になる可能性が高く統計が取りづらい等の課題がある。

計測方法は昨年度と同様に、提供前の料理の重さと宴会終了後の残食を計測し、残渣率を出す。

○委員等からの主な意見

・ポスターの掲示内容について、来店いただいた感謝の文言や三方よしフードエコ推奨店であること、残食の持ち帰りの有無等店側の意向も考慮した文言を明記する方が良いのでは？

→検討します。

・調査対象店について、結婚式場も検討しては？

→祝い場であり、ポスターを掲示することはふさわしくない。式場側の許可も下りにくい。実施するとしたら、ポスター掲示が食品ロスの削減に寄与するという成果が出てからの方が良い。

・調査体制はどうか？現状の人員配置では一部側面支援はできるが、昨年度のように当課職員も主になって調査に参加することは困難であることはご承知いただきたい。

→承知。学校側としては、現時点では不透明ではあるが、日程が合えば教授1名、学生1人～2人を検討。ただ、教授の日程が合わず学生のみで対応する場合不安ではある。

・骨等の食べられない部分はどうか？

→可食部のみを調査対象とする。

・調査方法を簡素化すると店側の理解も得られやすいのでは？

→昨年度の結果と比較したいので調査方法は現状から変更しない方向で考えているが、簡素化できる部分については検討する。

◎食品ロス実態調査（組成調査）の結果について

令和3・6年度に引き続き実施。

市街地及び郊外の特のごみステーションから可燃ごみを回収し、その後環境エネルギーセンターで展開検査を実施。検査内容としては、可燃ごみ全体における食品廃棄物の量及び食品廃棄物全体における食品ロス量の割合を測定するもの。

調査対象地については、郊外は過年度と同様だが、市街地は生ごみ処理器購入補助金の交付申請率が高い地域へ変更した。

検査の結果、前回と比べ市街地の数値は±3%以内となった。その一方で、郊外の数値は大きく変化し、食品廃棄物の割合が前回18.8%だったものが23.2%に、食品ロスの割合が前

	<p>回 34.0%だったものが 27.3%となった。</p> <p>食品ロス の平均割合 (28.1%) は、全国平均 (33.5%) と比べると低いことが分かった。</p> <p>○委員等からの主な意見</p> <ul style="list-style-type: none">・次回調査時の対象場所はどうするか？ <p>→定点観測を基本として検討</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--